

会議出席報告

日付 平成23年4月21日

執筆者氏名 駒井章治、中村柁樹、田中由浩、竹村仁美

※同一会議に複数の方が派遣されている場合は、派遣者の連名でも結構です。

1 会議概要

1) 名称

(和文) グローバルヤングアカデミー (GYA) 第一回総会

(英文) The First Annual General Assembly of the Global Young Academy

2) 会期 2011年3月20日～22日(3日間)

3) 会議出席者名

駒井章治、中村柁樹、田中由浩、竹村仁美

4) 会議開催地

ドイツ・ベルリン

5) 参加状況(参加国数、参加者数、日本人参加者)

約40ヶ国、約80名程度、4名

6) 会議内容(HP掲載を有効にするため、まずは概要、要点をお書きください)

・日程及び会議の主な議題

2011年3月20日(日)

オープニングセレモニー

昨年のワーキンググループのプロジェクトの活動報告

会員各自15分程度の科学的研究報告セッション

社会における科学：ドイツの事例、1933年から1945年

ベルリン・ヨーロッパ・ユダヤ人犠牲者記念館訪問

シュプレー川観覧船上での会食

2011年3月21日（月）

全体会議「若手科学研究者の支援」

全体写真撮影

2011年のグローバルヤングアカデミーの活動内容検討

会食及び執行委員会委員選挙前の非公式討議

2011年3月22日（火）

2011年のグローバルヤングアカデミーの活動再確認

共同議長並びに執行委員会委員選挙

閉会の辞

新共同議長及び新執行委員会委員の会議

・会議における審議内容・成果

第一回総会の主要な成果として大きく以下の四つが挙げられる。

- ① グローバルヤングアカデミーの憲章の採択
- ② 昨年設置されたワーキンググループにおける今年度の活動計画の一環として、六つのプロジェクトを喫緊の課題として採択
 - (1) 国内・地域的若手アカデミーの創設を促すプロジェクト
 - (2) 若手科学者アンバサダープログラム)を科学者交流と関連付けて推進するプロジェクト
 - (3) 途上国にいる若手研究者が科学的ソフトウェアにアクセスすることができるとような仕組みを構築するプロジェクト
 - (4) 若手科学者が政策及び大きな挑戦課題に関する討論へ貢献するためのプ

ロジェクト

(5) 若手科学者の視点からの助成金付与の成功事例を提示するプロジェクト

(6) 若手科学者の流動・移住から生ずる頭脳流出に関連する途上国支援プロジェクト

③ 北アフリカ、中東、日本における現代的危機からの再生支援の計画

④ 新共同議長、新執行委員会委員の選出及びグローバルヤングアカデミーの活動のためのリーダーの選出

総会中に行われた選挙結果に基づき、以下の通り十一名の投票権を有する委員と三名の投票権を持たない委員による新規メンバーが選出された。

共同議長 途上国 Bernard Slippers (南アフリカ)
先進国 Gregory Weiss (アメリカ合衆国)

執行委員会 途上国 Amal Amin (エジプト)
Kassymkhan Kapparov (カザフスタン)
Wibool Piyawattanametha (タイ)
Vinitha Thadhani (スリランカ)

先進国 Tilman Brück (ドイツ)
David Hutchinson (ニュージーランド)
James Richard Tickner (オーストラリア)
Rees Kassen (カナダ)
Shoji Komai (日本)

選挙後、執行委員会により選出された投票権のない執行委員会委員

Cheikh Khadir (セネガル)
Gabriela Montenegro (グアテマラ)
Bettina Speckmann (オランダ)

その他のグローバルヤングアカデミーの活動に関するリーダーの任命

地位	氏名
事務局	Wibool Piyawattanametha (タイ)
会計	David Hutchinson (ニュージーラ

	ンド)
広報、ウェブデザイン	Bettina Speckmann (オランダ)、James Tickner (オーストラリア)、Nitsara Karoonuthaisiri(タイ)、Stephen Miller (アメリカ)、Shoji Komai (日本)
各ワーキンググループのリーダー	Sameh Soroh (エジプト)、Abdullah Shams Bin Tariq (バングラデシュ)、Fernando Febres Cordero (ベネズエラ)、Ernesto Lupercio (メキシコ)、Warinthorn Songkasiri (タイ)、Stephen Miller (アメリカ)、Rees Kassen (カナダ)、Tilman Brück (ドイツ)、Yael Hanein (イスラエル)
地域的アウトリーチコーディネーター	Rees Kassen (カナダ)
政府、学術会議、NGOへの地域アウトリーチ	【アフリカ】John Muyonga (ウガンダ)、Paul Nampala (ウガンダ)、Abidemi James Akindele (ナイジェリア)、Augustine Ocloo (ガーナ)、Philimon Gona (ジンバブエ)、Cheikh Abdoul Khadir Diop (セネガル)、【中東・ヨーロッパ】Sameh Soror (エジプト)、【ヨーロッパ】Martinez Aldaya Maite (スペイン)、【北アメリカ】Rees Kassen (カナダ)、Gregory Weiss (アメリカ)、【南アメリカ】Gabriela Montenegro-Bethancourt (グアテマラ)、Fernando Febres Cordero (ベネズエラ)、Ernesto Lupercio (メキシコ) 【アジア】Wibool Piyawattanametha (タイ)、Aftab Ahmad Chattha (パキスタン)、Hitomi Takemura (日本)、【旧ソ連地域】Kassymkhan Kapparov (カザフスタン)
新メンバーの募集・選出コーディネーター	James Richard Tickner (オーストラリア)
新メンバーの募集・選出委員会	Javier M. Moguerza (スペイン) John Muyonga (ウガンダ)、Hans Hilgenkamp (オランダ)、Abidemi James Akindele (ナイジェリア)、Amal Amin (エジプト)、Abdullah Shams Bin Tariq (バングラデシュ)、Augustine Ocloo (ガーナ)、Nagadenahalli Siddappa (インド)、Nitsara Karoonuthaisiri (タイ) Tilman Brück (ドイツ)、Gregory Weiss (アメリカ)、Regina C. So (フィリピン)、Vinitha Thadhani (スリランカ)、Manjurul Karim (バングラデシュ)
GYAニュースレターの編集委員	Kassymkhan Kapparov (カザフスタン)、Paul Nampala (ウガンダ)、Gabriela Montenegro-Bethancourt (グアテマラ)

・ 会議において日本が果たした役割

総会の各セッションにおいて、日本人の参加者も書記、2011年度の新ワーキンググループを検討する際に提案されていたワーキンググループの推進者に予め任命されるなど積極的な参加を求められ、総会運営に貢献した。科学的研究のセッションにおいても、日本人参加者それぞれがポスター発表又はスライドによる口頭報告を行い、専門分野を異分野研究者に分かりやすく伝えることに努めた。今回、東日本大震災10日後に行われた国際会議に日本人研究者が出席したことで、日本が震災前も後も変わらずに国際学術活動に深く関与していく前向きな姿勢を持ち続けていることを国際社会に向けて発信することになった。実際、被災直後の日本の参加者に向けてグローバルヤングアカデミーの共同議長から歓迎のあいさつがなされた。また、今回の総会の成果にあるように日本や北アフリカ、中東における最近の災害・政変にともなう危機における若手科学者の支援・受け入れのための声明、支援プログラムの立ち上げについても、日本人参加者は現代的危機の当事者として意見を求められた。今後のGYAの活動に向けても、2011年度のグローバルヤングアカデミー執行委員会委員の一人に駒井章治（若手アカデミー委員、若手アカデミー活動検討分科会委員長）が選出されたことから、日本はグローバルヤングアカデミーにおいて大きな存在感を示すこととなろう。その他、駒井はグローバルヤングアカデミーに係る広報・ウェブデザインのリーダーのうちの一人として任命されており、政府、学術会議、NGOに対する地域的アウトリーチ活動のアジア地域のリーダーの一人に竹村仁美（若手アカデミー委員、若手アカデミー活動検討分科会委員）が任命されている。

・その他特筆すべき事項（共同声明や新聞等で報道されたもの等）

① 「北アフリカ、中東、日本における現代的危機からの再生を支援するグロー

バルヤングアカデミーの方針に関するプレスリリース」(2011年4月2日)

http://www.globalyoungacademy.org/images/stories/Press_statement_-_crisis_response_-_candidate_final_April_2.pdf

- ② Bruce Alberts ‘The Young Academy Movement’ *Science* Vol. 332 no. 6027 p. 283 (15 April 2011) 雑誌『サイエンス』の編集長、ブルース・アルバーツ博士による今回の総会の意義に関するサイエンスの記事。

2. 会議の様相 (会議のより詳細な状況、宿題、次のステップ、次回開催等もお書きください)

今回の第一回総会において、グローバルヤングアカデミーの骨格となる憲章が採択された。第一回総会では、2011年度の活動内容の計画を練ることを中心に話し合いが進められた。その成果として、2010年度に立ち上げられていたワーキンググループに対して今後の活動計画となる具体的なプロジェクトの採択が行われた。

この度の総会は当初2011年2月中にエジプトのアレキサンドリアで行われる予定であったけれども、2011年初めにエジプトで起こった政治的変動と民衆の暴動を受け、治安を考慮して開催地が急きょドイツ・エジプトに変更された。しかしながら、アレキサンドリアを次年度のグローバルヤングアカデミーの総会開催地と決定した。こうして、総会の場を政変・暴動後の地域と決定することによって、グローバルヤングアカデミーは間接的な復興支援を行うことができると考えられている。また、グローバルアカデミーは、プレスリリースや研究者受け入れ支援活動の立ち上げによって、そのような危機に直面した北アフリカ、中東、そして東日本大震災を経験した日本の復興を全面的に支援する姿勢を打ち出し、世界中の危機に迅速に対応した。こうして、若手科学

者が世界中から集まり、地球上の危機・課題に対処するためにはどうすべきかについて膝を突き合わせて議論し迅速に対処することは、本組織、グローバルヤングアカデミーの重要な存在意義の一つである。

特に日本人参加者にとっては、グローバルヤングアカデミー第一回総会の参加者の東日本大震災への関心が高いことが印象的であり、参加者全員が哀悼の意をこめて黙とうを捧げてくれたことには感動を覚えた。

グローバルヤングアカデミー第一回総会の場において、地球上の人災・天災が復興のために必要な科学的知見に基づいた情報を曖昧としてしまうことが改めて認識された。グローバルヤングアカデミーは、第一回総会後の2011年4月に出された声明において、この組織を通じ、政変・紛争後の地域及び被災地の復興・再生に必要な科学的知見を同定していくと発表した。このように国際社会にとって有益な活動が、今後のグローバルヤングアカデミーの評価につながっていき、組織を活性化していくことは言うまでもない。

2010年はグローバルヤングアカデミーにとって組織を軌道に乗せるための準備期間であった。2011年3月の第一回総会においては、具体的な組織の活動の設計図を軌道に乗せて走らせる必要がある。さらに、今後、グローバルヤングアカデミーの活動が具体的になるにつれ、資金集め（fund-raising）が一層重要な課題となってくる。今回、途上国における若手研究者に対するソフトウェアのアクセス向上の計画が優先度の高い事項として採択されたけれども、こうした途上国支援のための行動計画の実現可能性は、グローバルヤングアカデミーに対する理解をどの程度国内・国際社会から得られるかに掛っている。その他、2010年夏のサマーダボスで開かれた若手科学者会議において採択されたヤングアンバサダープログラム、すなわち若手先進国の若手研究者を途上国へ講義に派遣する、あるいは逆に途上国の若手研究者を先進国へ受け

入れるプログラムも、現在まで数例しか実現しておらず、今後、グローバルヤングアカデミーという国際的組織を背景に先進国・途上国の研究者交流の更なる活性化が期待される。

次回開催予定 24年2月末から3月末 エジプト・アレキサンドリア

注：報告書作成にあたり Word 形式で作成をお願いいたします。また、会議等の写真データ（jpeg）がありましたら、ご提供願います。なお、写真データは、報告書に貼り付けるのではなく、データだけ、本報告書と一緒に送付していただければ結構です。